



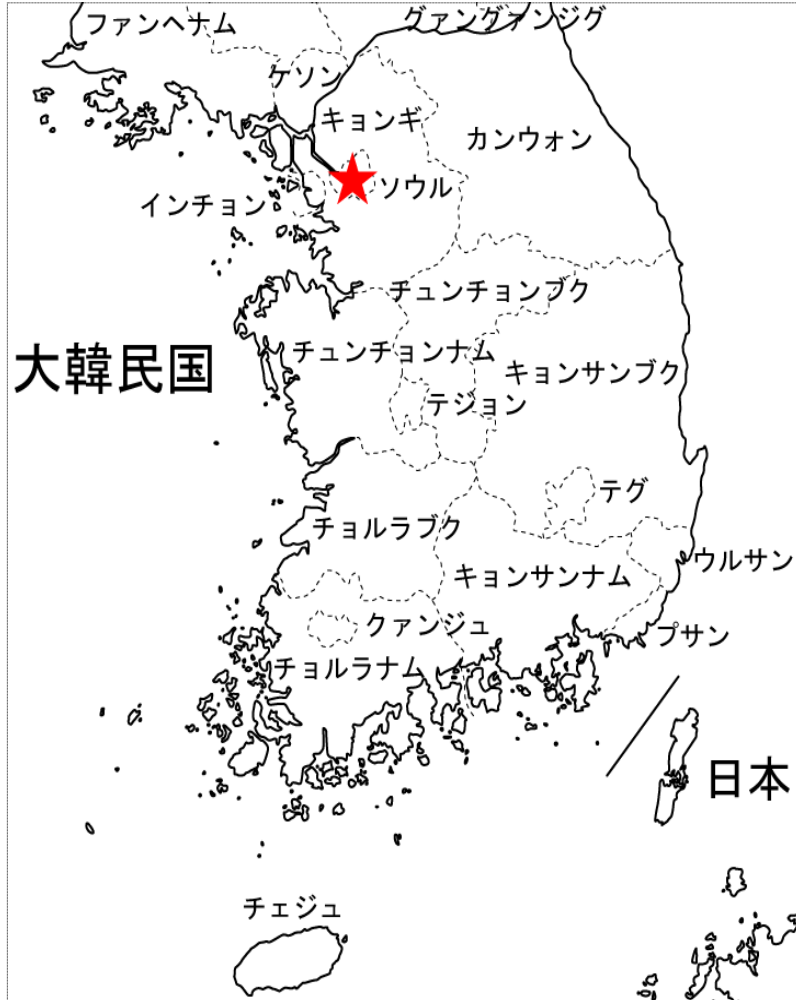
韓国経済情報

2019年 11月

ジェトロ ソウル

韓国の概要

図 韓国略図



- 面積: 10.03万km²(18年、日本の約1/4)
- 人口: 5,184万人(19年9月)
 - 特別市: ソウル(974万)
 - 広域市: 釜山(342万)、大邱(244万)、仁川(295万)、光州(145万)、大田(147万)、蔚山(114万)、
 - 特別自治市: 世宗(33万)
 - 道: 京畿道(1,320万)、江原道(154万)、忠清北道(159万)、忠清南道(212万)、全羅北道(182万)、全羅南道(186万)、慶尚北道(266万)、慶尚南道(336万)、
 - 特別自治道: 済州(67万)
- 1人当たり国民総所得(名目): 27,681(16年)→29,745(17年)→31,349ドル(18年)
- 合計特殊出生率: 1.17(2016年)→1.05(2017年)→0.98(2018年、確定)
- 日本との人的交流
 - 日本→韓国: 184万人(15年)→230万人(16年)→231万人(17年)→294万人(18年)
 - 韓国→日本: 400万人(15年)→509万人(16年)→714万人(17年)→753万人(18年)
 - 在留邦人数: 2万3,343人(17年12月)→2万3,892人(18年12月)→2万5,647人(19年9月)
- 韓国進出日系企業
 - SJC(Seoul Japan Club)法人会員企業数:
401社(16年末)→407社(17年末)→397社(18年末)→394社(19年10月)
 - 産業通商資源部「外国人投資企業情報(日本)」:
3,046社(16年末)→3,090社(17年末)→3,158社(18年末)→2,855社(19年10月)
 - 東洋経済新報社「2019年版海外進出企業総覧」:
738社(16年7月)→730社(17年7月)→754社(18年8月)→765社(19年8月)

出所: 1, 3, 4は統計庁、2は安全行政部、5は法務部、JNTO、外務省、6はSJC、産業通商資源部、東洋経済

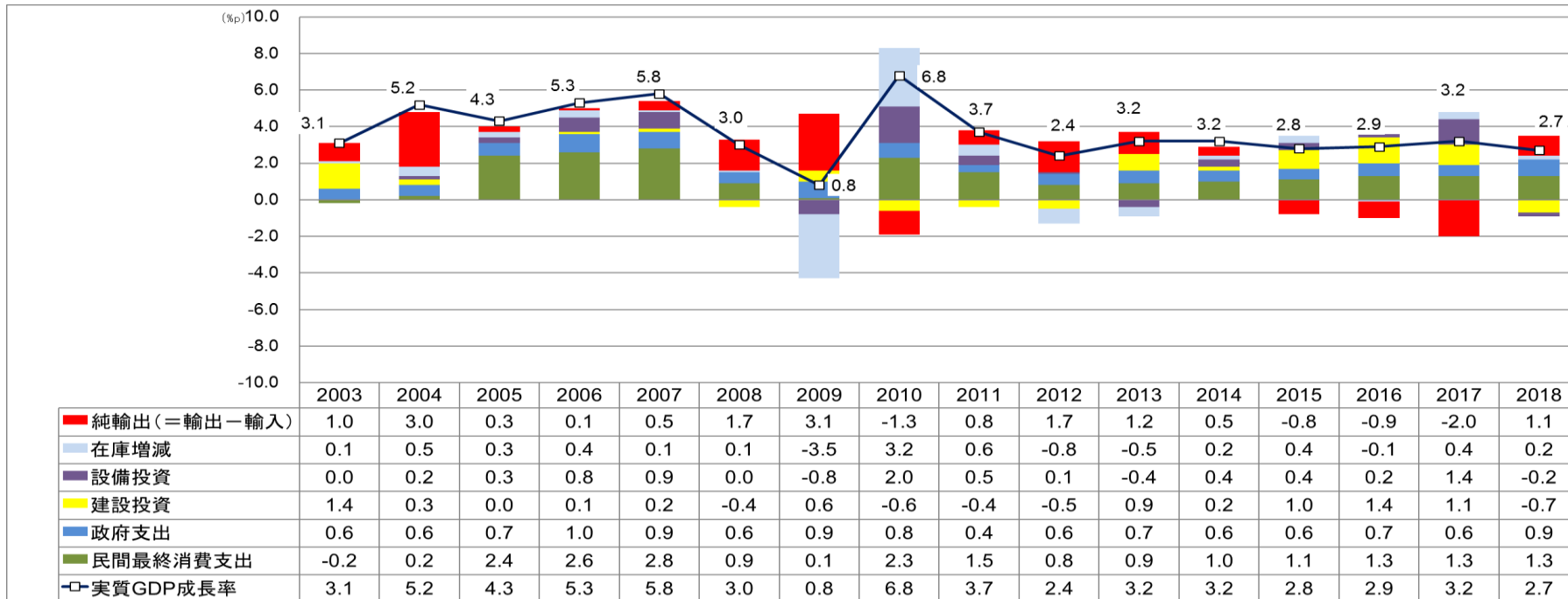
注: 6の産業通商資源部のデータには撤退した企業も一部含まれている。

マクロ経済の現状

支出項目別GDP成長率寄与度

図 韓国の実質GDP成長率、支出項目別寄与度の推移(原系列、前年比)

(単位: %p)



出所: 韓国銀行(2015年度連鎖価格基準、2019年6月4日公表)

表 韓国の支出項目別実質GDP成長率寄与度の推移(季節調整、前期比)

(単位: %p)

	民間最終消費支出	政府支出	建設投資	設備投資	在庫増減	純輸出	輸出		実質GDP成長率
							輸出	輸入	
2018 I	0.3	0.3	0.1	0.4	0.0	-0.1	1.4	1.5	1.0
2018 II	0.2	0.1	-0.4	-0.8	0.3	1.1	0.3	-0.8	0.6
2018 III	0.2	0.2	-0.9	-0.4	-0.8	2.0	1.6	-0.4	0.5
2018 IV	0.4	0.4	0.3	0.3	0.6	-1.2	-0.6	0.6	0.9
2019 I	0.1	0.1	-0.1	-0.8	0.3	-0.1	-1.3	-1.3	-0.4
2019 II	0.3	0.4	0.2	0.3	0.1	-0.2	0.8	1.0	1.0
2019 III	0.0	0.2	-0.8	0.0	-0.5	1.3	1.7	0.3	0.4

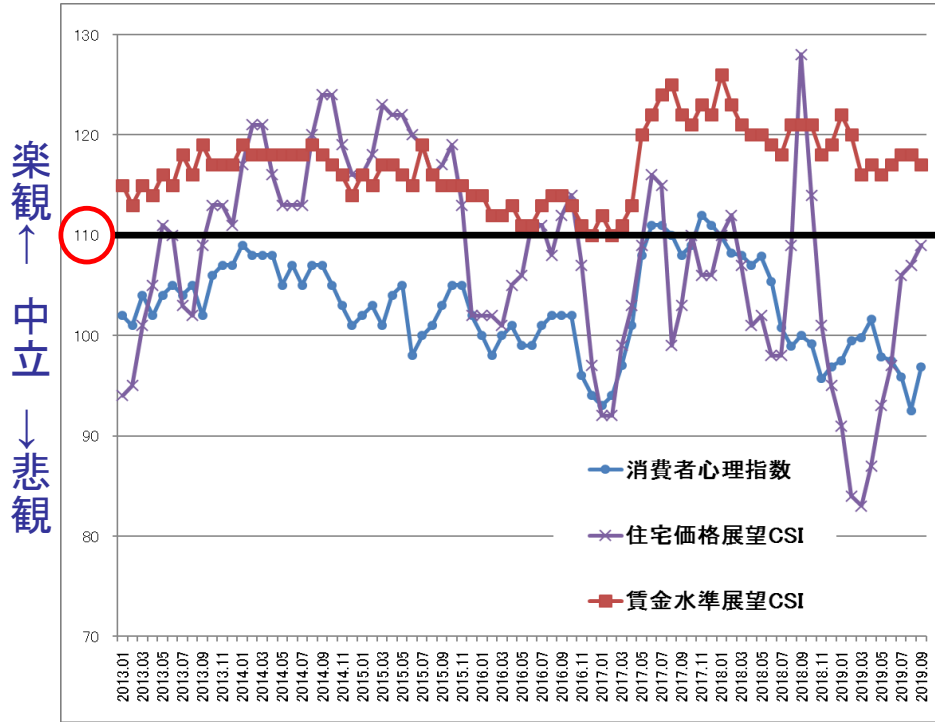
第3四半期は
7~9月の建設・土木工事が減少し、
産業の構造調整の影響で設備投資
も0.5%増にとどまった。

出所: 韓国銀行(2015年度連鎖価格基準、2019年10月24日)

景気動向

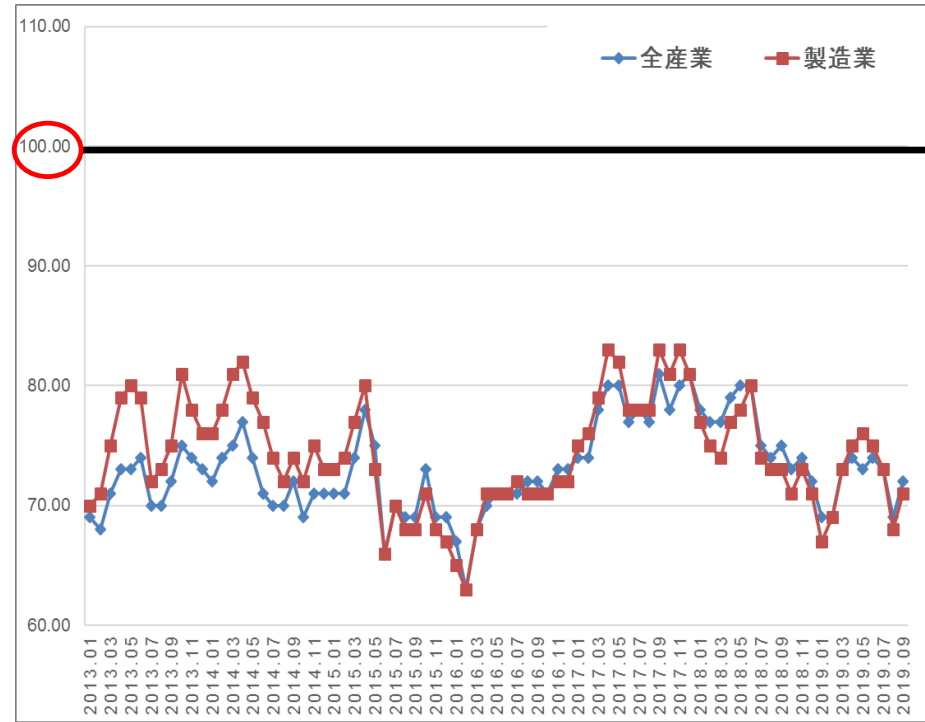
- 2017年1月に93と底を打った消費者心理は、11月に112とピークを打ってから下落傾向にある。
- 企業の景気判断は、2018年に6月のピークを過ぎ、その後は下落傾向を続けている。

図 消費者心理の動向



注1：各項目は100を上回る(下回る)と回答者の過半数が肯定的(否定的)に見ていることを示す。「消費者心理指数」は総合指標であり、100を上回る(下回る)と平均より消費心理が良い(悪い)ことを示す。
 注2：「展望」は現在と6カ月後の見通しを比較したもの。
 出所：韓国銀行

図 企業の景況判断BSI



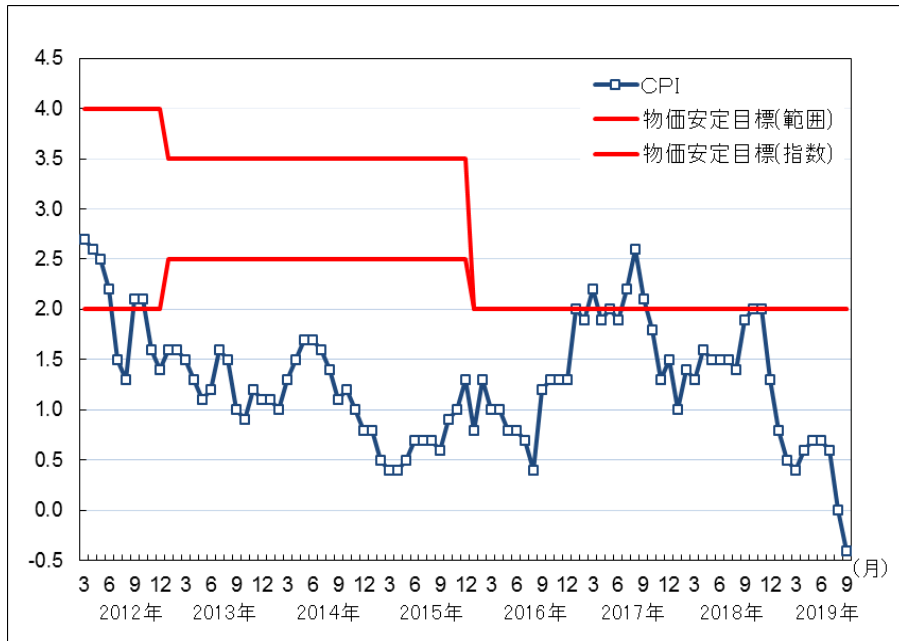
注：前期に比べ景況はよくなったと回答した企業と悪くなったと回答した企業の割合の差に100を足し算したものの、一般的に100を上回る(下回る)と景気がいい(悪い)ことを示す。
 出所：韓国銀行

消費者物価の動向

□ 消費者物価上昇率は2018年8月に1.4%となり、9月から11月まで2.0~2.1%の上昇率を見せていたが、12月に1%台に減少。2019年9月は前年同期比0.4%下落し、前月比では0.4%上昇。消費者物価指数は9ヵ月連続で0%台の低い水準。

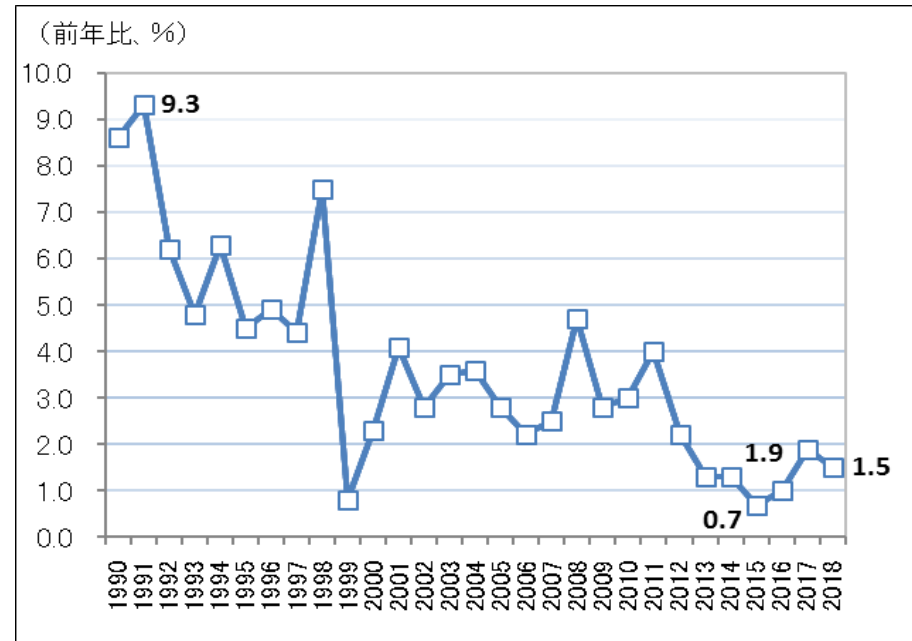
□ 2018年の消費者物価上昇率は前年比1.5%増。

図 消費者物価上昇率(月別)の推移



注：物価安定目標は2013年から2.5~3.5%に調整し、2016年より2%に調整。
出所：統計庁(2019年10月1日基準)

図 消費者物価上昇率(年別)の推移

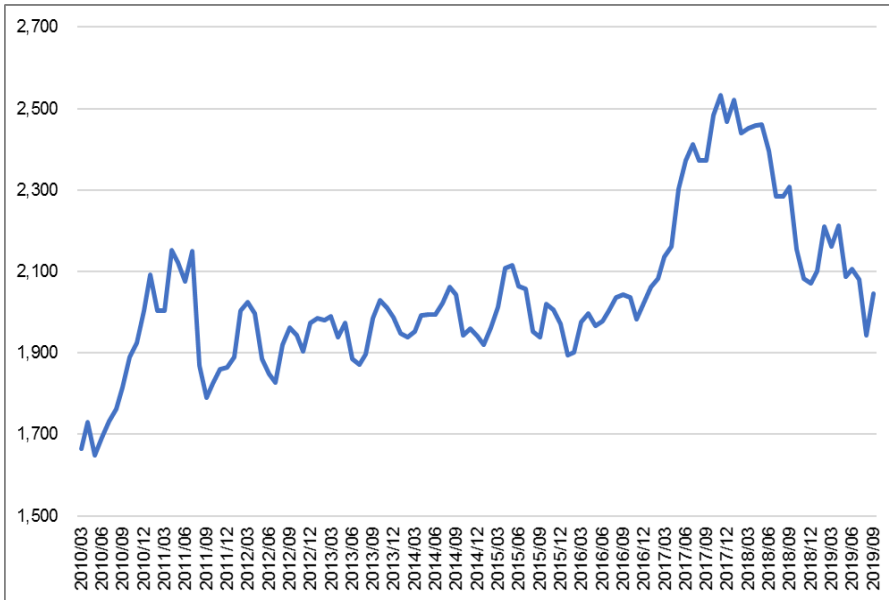


出所：統計庁

株価と為替の推移

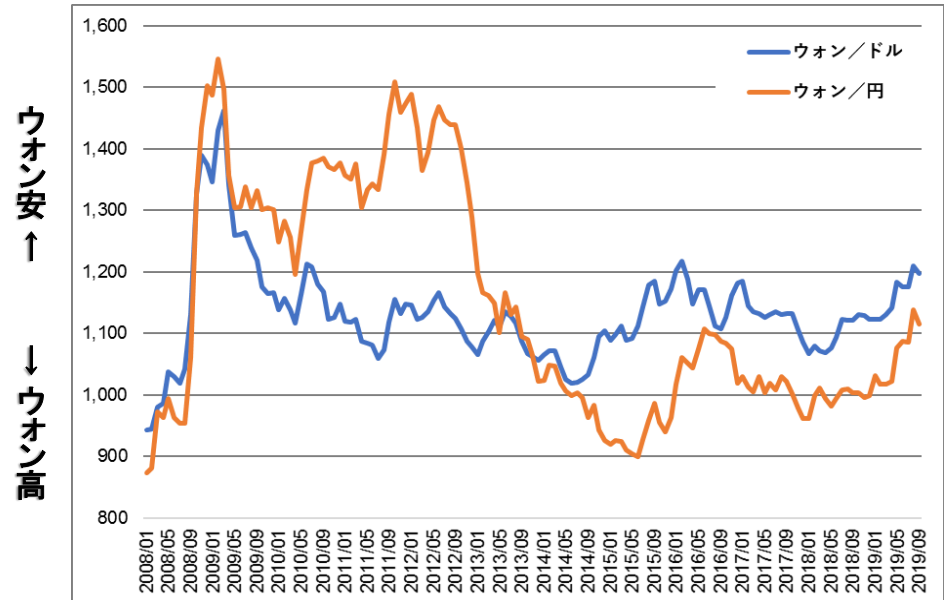
- 株価は、2017年11月に2,500台を突破したが、それを境に2018年に入ってから下落傾向にある。
- 為替レートは1ドル=1,168.40ウォン、100円=1,074.05ウォン(以上、2019年10月31日)の水準。
- 外貨準備高は2019年9月末基準、4,033億ドルで世界9位(中、日、瑞、露、沙、台、香、印)。
- 政策金利は、2019年7月、年1.75%から1.50%へ0.25ポイント引き下げて以来3カ月ぶりの利下げとなり、10月16日1.25%に下方修正。

図 KOSPIの推移(2010年以降、月平均)



出所：韓国銀行(2019年10月28日基準、10月31日の終値は2,083.48)

図 為替動向(2008年以降、月平均)

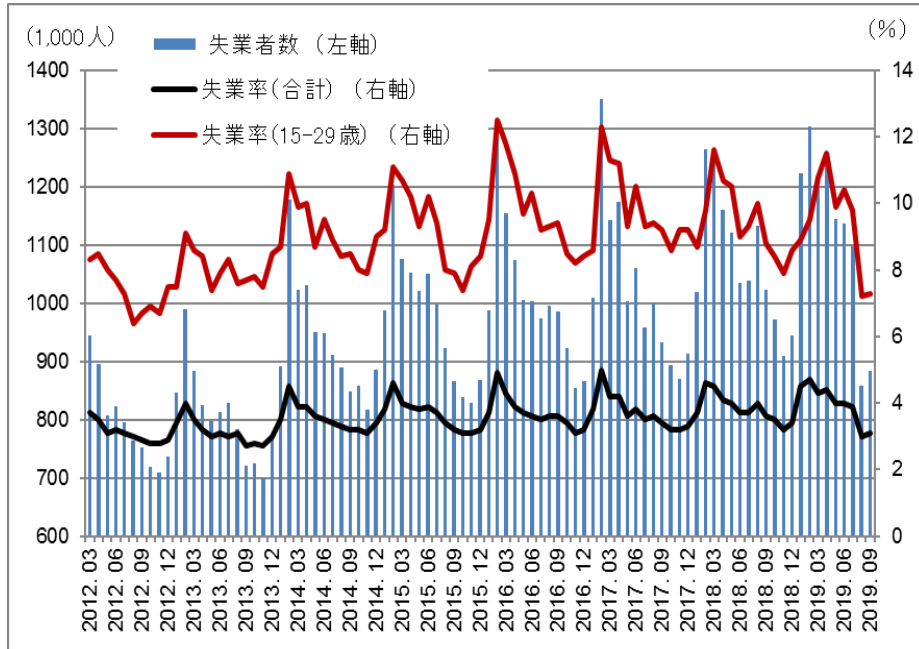


出所：韓国銀行(2019年10月28日基準)

雇用動向

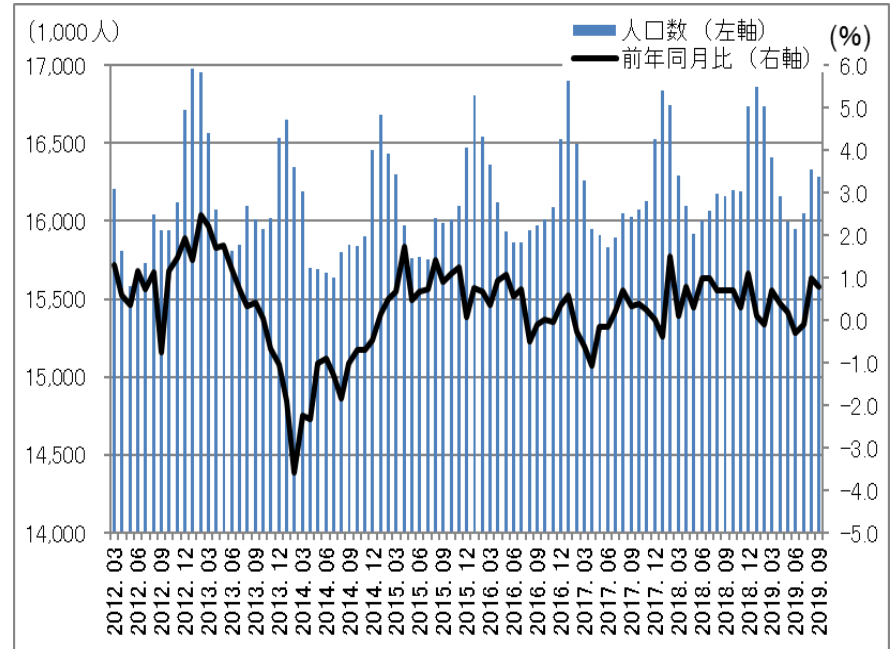
- 2019年9月の失業率は3.1%であり、非経済活動人口は1,628万人。若年層の失業率は7.3%となり、前年同月比1.5ポイント減。
- 2018年通年の雇用率は66.6%であり、前年と同様。
- 政府は2017年10月に「雇用政策5年ロードマップ」を発表し、5大分野10重点課題を設定・推進中。

図 失業者数・失業率の推移



注：雇用率＝就業者／15歳以上の人口×100
 失業率＝失業者／就業者＋失業者（軍人を除く）
 出所：統計庁(2019年10月16日基準)

図 非経済活動人口数の推移

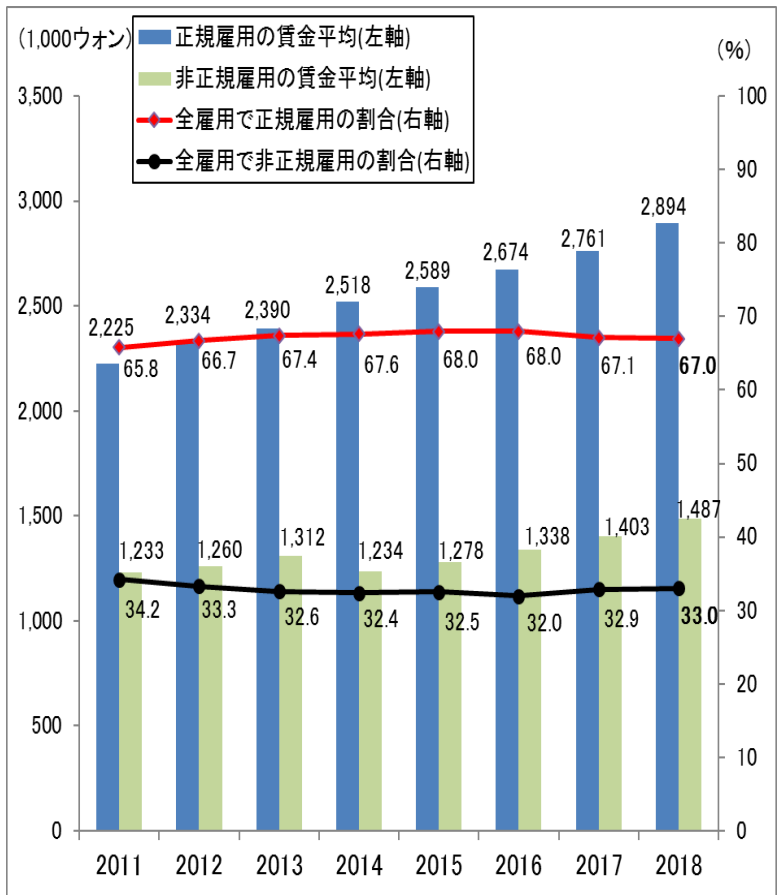


注：非経済活動人口とは、就職する意思がなく失業者と就職者いずれにも含まれない15歳以上の人口で、主婦、学生、高齢者などを含む。
 出所：統計庁(2019年10月16日基準)

韓国企業の賃金事情

- 雇用者の33%が非正規雇用者。(最低賃金:2018年7,530ウォン、2019年8,350ウォン、2020年8,590ウォン)
- 非正規雇用者の賃金は正規雇用者のおよそ半分程度。

図 雇用形態別賃金(定額給与)



出所：雇用労働統計(<http://laborstat.molab.go.kr>)

表 従業員規模別・産業別賃金(定額給与)

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
従業員規模別	5人未満	1,495	1,485	1,540	1,609	1,672	1,772
	5~29人	2,092	2,128	2,182	2,258	2,360	2,499
	30~299人	2,331	2,400	2,452	2,539	2,625	2,793
	300人未満	1,993	2,036	2,087	2,175	2,243	2,375
	300人以上	3,061	3,228	3,424	3,469	3,527	3,541
産業別	全産業	2,140	2,200	2,262	2,347	2,419	2,542
	農業、林業、および漁業	2,229	2,213	2,238	2,314	2,255	2,455
	鉱業	2,469	2,558	2,821	2,996	3,007	3,206
	製造業	2,174	2,344	2,424	2,507	2,538	2,682
	電気、ガス、熱気、および水道事業	3,655	3,739	3,871	4,059	4,013	4,218
	下水・廃棄物処理、原料再生、および環境復元業	2,276	2,320	2,422	2,468	2,618	2,833
	建設業	2,253	2,273	2,263	2,315	2,407	2,528
	卸・小売業	1,984	2,050	2,136	2,232	2,318	2,459
	運輸業	2,109	2,116	2,209	2,320	2,445	2,476
	宿泊、および飲食店業	1,243	1,170	1,198	1,271	1,279	1,395
	出版、映像、放送通信、および情報サービス業	3,048	3,022	3,115	3,184	3,282	3,479
	金融、および保険業	3,354	3,586	3,620	3,816	3,832	3,956
	不動産業、および賃貸業	1,752	1,747	1,832	1,976	2,131	2,255
	専門、科学、および技術サービス業	3,104	3,162	3,273	3,316	3,452	3,559
	事業施設管理、および事業支援サービス業	1,845	1,968	2,038	2,111	2,211	2,368
	教育サービス業	2,382	2,363	2,378	2,513	2,734	2,749
	保険業、および社会福祉サービス業	1,934	1,906	1,965	1,997	2,147	2,254
芸術、スポーツ、および余暇関連サービス業	1,481	1,557	1,575	1,686	1,722	1,836	
協会および団体、修理、およびその他個人サービス業	1,684	1,620	1,664	1,723	1,813	1,927	

出所：雇用労働統計(<http://laborstat.molab.go.kr>)

韓国の輸出入の動向

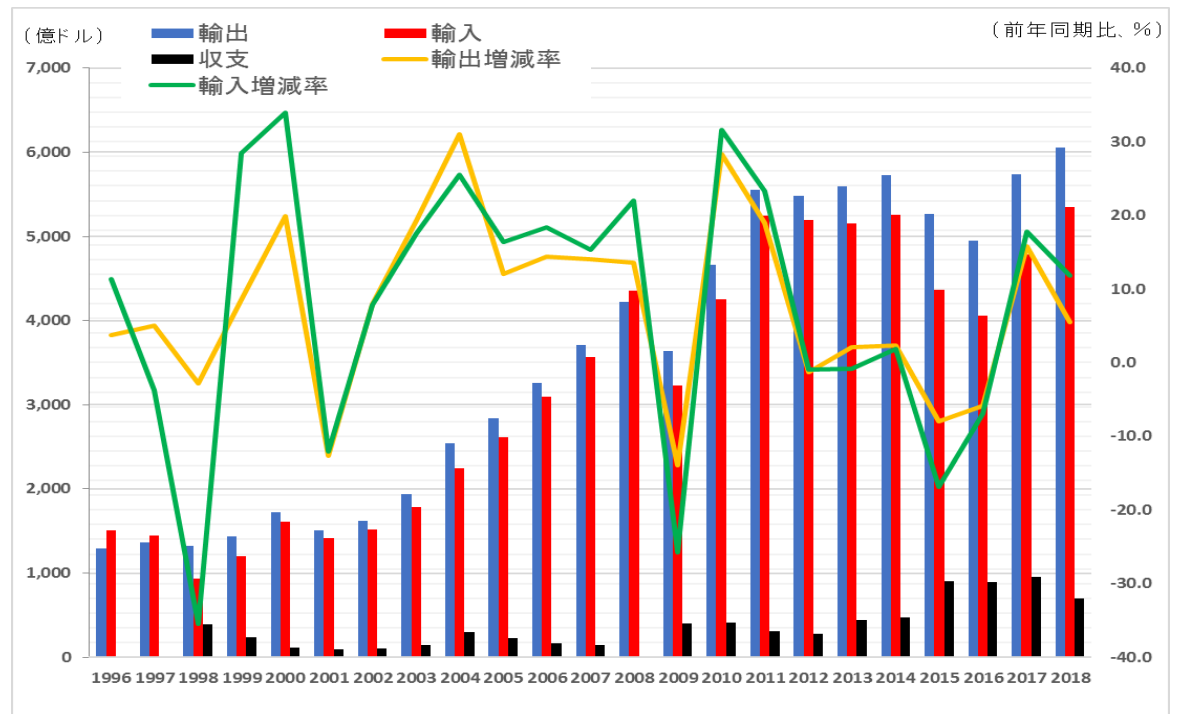
- 韓国は輸出依存度が高く、経済は輸出の好不調に影響されやすい。
- 2018年の輸出は6,048億ドルと過去最多となり、そのうち半導体が1,267億ドル、輸入は5,352億ドル。
- 2019年9月の輸出は447億ドル(前年同月比11.7%減)、輸入は387億ドル(同5.6%減)となり貿易収支は60億ドルの黒字(黒字幅が縮小傾向)。2012年2月以降、継続して黒字で推移。

図 主要国の輸出依存度(2017年)(単位:%)

	国名	依存度
アジア	香港	145.73
	タイ	51.64
	韓国	37.49
	中国	18.63
	日本	14.33
	インド	11.51
欧米	ドイツ	39.37
	イタリア	26.17
	フランス	20.72
	米国	7.97

注：輸出依存度＝輸出額/GDP
出所：統計庁

図 韓国の輸出入動向(年間)



出所：韓国貿易協会

最近の国別輸出入の現状

- 中国は輸出先・輸入先としてともに第1位であり、貿易収支でも最大の黒字国。米中貿易紛争の影響が注目される。
- 日本は輸出先として第5位、輸入先として第3位で、貿易収支では最大の赤字国。
- ここ数年、韓国企業の進出増加でベトナムへの輸出入が継続して大幅増加。

表 2018年の国別輸出入・貿易収支

(単位: 100万ドル、%)

輸出						輸入						貿易収支(2018年)			
順位	2016	2017	2018	金額	構成比	順位	2016	2017	2018	金額	構成比		順位	国名	金額
1	中国	中国	中国	162,125	26.8	1	中国	中国	中国	106,489	19.9	黒字	1	中国	55,636
2	米国	米国	米国	72,720	12.0	2	日本	日本	米国	58,868	11.0		2	香港	43,999
3	香港	ベトナム	ベトナム	48,622	8.0	3	米国	米国	日本	54,604	10.2		3	ベトナム	28,979
4	ベトナム	香港	香港	45,996	7.6	4	ドイツ	ドイツ	サウジアラビア	26,336	4.9		4	米国	13,852
5	日本	日本	日本	30,529	5.0	5	台湾	サウジアラビア	ドイツ	20,854	3.9		5	インド	9,721
6	シンガポール	オーストラリア	台湾	20,784	3.4	6	サウジアラビア	オーストラリア	オーストラリア	20,719	3.9	赤字	1	日本	△ 24,075
7	台湾	インド	インド	15,606	2.6	7	オーストラリア	台湾	ベトナム	19,643	3.7		2	サウジアラビア	△ 22,384
8	インド	台湾	フィリピン	12,037	2.0	8	ベトナム	ベトナム	ロシア	17,504	3.3		3	カタール	△ 15,768
9	メキシコ	シンガポール	シンガポール	11,782	1.9	9	カタール	ロシア	台湾	16,738	3.1		4	クウェート	△ 11,541
10	マーシャル諸島	メキシコ	メキシコ	11,458	1.9	10	ロシア	カタール	カタール	16,294	3.0		5	ドイツ	△ 11,481
輸出計				604,860	100.0	輸入計				535,202	100.0	貿易収支計		69,658	

出所：韓国貿易協会

2018年の品目別輸出入の現状

- 半導体(前年比29.4%)と石油製品(前年比32.9%)の輸出が大幅増加。
- 船舶(前年比49.6%)と自動車関係も前年同期比減少している。なお、通信機器の減少は生産拠点を海外に移行した影響によるもの。
- 輸入は、資源と輸出製品の素材となる石油化学品が大幅に増加。

表 2018年の品目別輸出入・貿易収支

(単位:100万ドル、%)

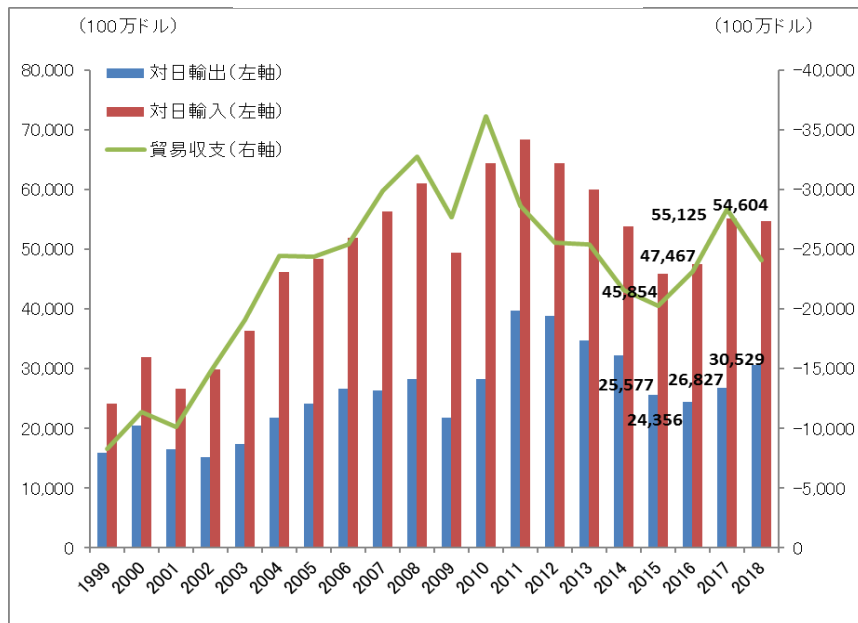
輸出				輸入			
品目名	金額	構成比	前年比	品目名	金額	構成比	前年比
1 半導体	126,706	20.9	29.4	1 原油	80,393	15.0	34.8
2 石油製品	46,350	7.7	32.9	2 半導体	44,728	8.4	8.6
3 自動車	40,887	6.8	△ 1.9	3 天然ガス	23,189	4.3	48.6
4 平板ディスプレイ・センサー	24,856	4.1	△ 9.8	4 石油製品	21,443	4.0	41.9
5 自動車部品	23,119	3.8	△ 0.1	5 半導体製造用装備	18,805	3.5	△ 2.7
6 合成樹脂	22,960	3.8	12.3	6 石炭	16,703	3.1	9.9
7 船舶海洋構造物・部品	21,275	3.5	△ 49.6	7 精密化学原料	13,021	2.4	31.9
8 鉄鋼板	19,669	3.3	8.6	8 コンピューター	12,708	2.4	8.6
9 無線通信機器	17,089	2.8	△ 22.6	9 無線通信機器	12,429	2.3	△ 6.4
10 コンピューター	10,760	1.8	17.3	10 自動車	12,099	2.3	11.0
輸出計	604,860	100.0	5.5	輸入計	535,202	100.0	11.8

出所：韓国貿易協会

日韓貿易の現状

- 日韓の貿易は、韓国の赤字基調が続いているものの、2011年以降、赤字幅が縮小傾向。
(※2016年からの対日輸入の増加は、半導体生産の積極的な投資に伴う、製造措置の輸入増によるもの)
- 赤字幅縮小の背景には日本の部品・素材に対する依存度の減少、日系企業の韓国現地生産の増加、韓国企業による中核部品の輸入先多角化に向けた取り組みがある。
- 構造的な対日貿易赤字は「日本から中間財・資本財を輸入し、それらを加工・組立てて輸出する」との韓国の産業構造に起因するところが大きい。

図 日韓の貿易推移



出所：韓国貿易協会

表 2018年の日韓の品目別輸出入

(単位：100万ドル、%)

	対日輸出			対日輸入		
	品目名	金額	前年比	品目名	金額	前年比
1	石油製品	5,214	70.8	半導体製造用装備	6,191	7.8
2	鉄鋼板	2,128	0.7	半導体	4,519	△ 3.3
3	半導体	1,238	4.9	鉄鋼板	2,454	5.2
4	精密化学原料	1,203	43.0	プラスチック製品	2,247	△ 5.3
5	合成樹脂	931	28.9	精密化学原料	1,902	29.3
6	自動車部品	912	△ 2.6	基礎留分	1,870	4.3
7	プラスチック製品	767	△ 1.1	合金鉄銑鉄およびスクラップ	1,667	28.5
8	金・銀・白金	753	△ 3.5	計測・制御・分析機器	1,476	5.1
9	鑄造・鍛造品	616	0.8	原動機およびポンプ	1,356	△ 4.6
10	嗜好食品	608	1.8	自動車	1,232	5.2
	輸出計	30,529	14.0	輸入計	54,604	△ 0.9

注：MTI3桁ベース(韓国独自の品目分類体系、Ministry of Trade and Industry)

出所：韓国貿易協会

2017～2018年の対中貿易

- 主に部品、原材料を輸出し、完成品を輸入する構造。
- 2018年は対中輸出額は過去最高で、全体輸出で中国が占める割合も過去最高。
半導体・消費財輸出の好調によるもので、割合が大きいだけに米中貿易紛争の影響も大きい。
- 2018年の対中輸出は1,621億ドルとなり、貿易黒字は17年の442億ドルから556億ドルに増加。

表 2018年の韓国の品目別対中輸出入

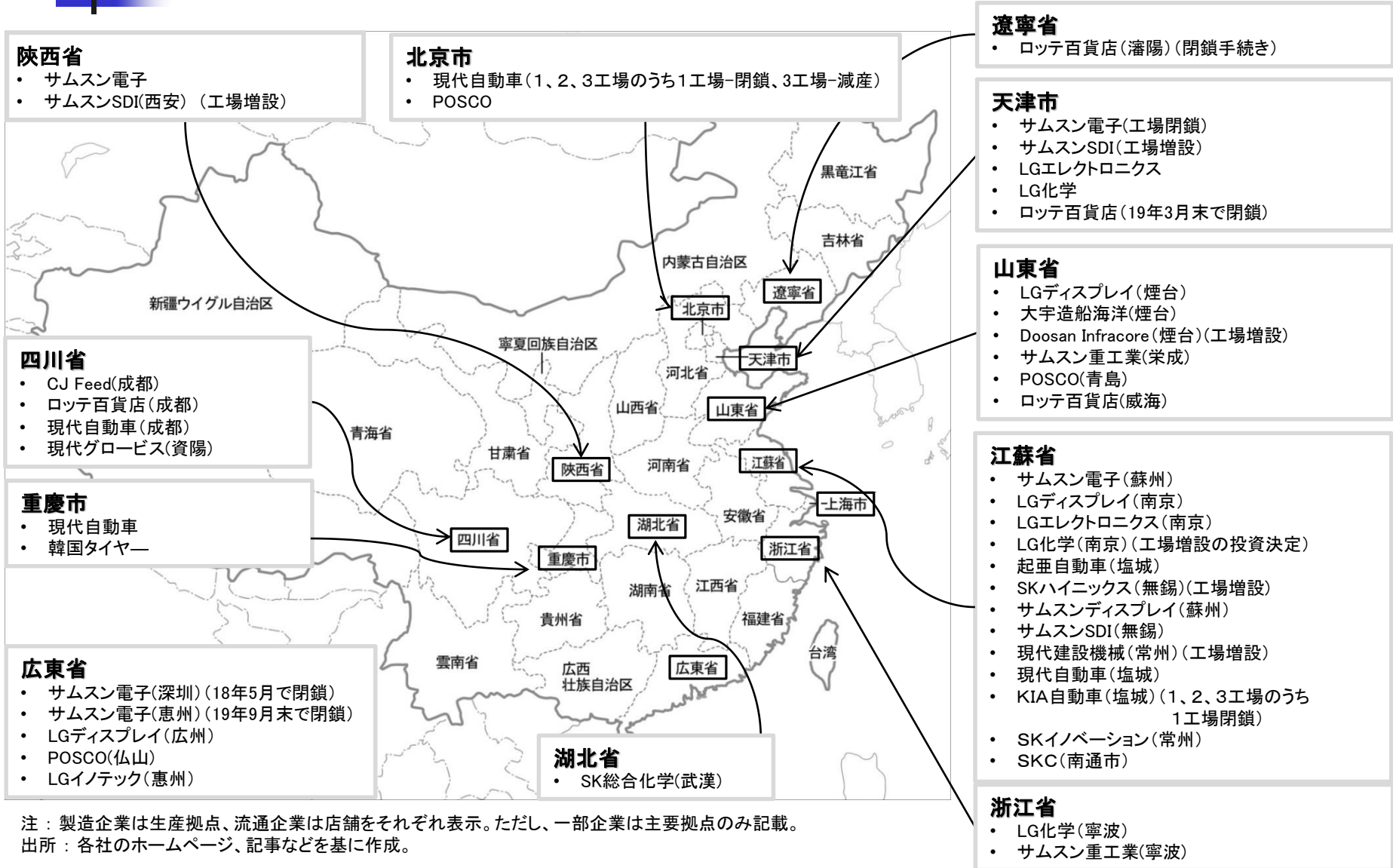
(単位:100万ドル、%)

順位	輸出					輸入				
	品目名	金額				品目名	金額			
		2017年	2018年	構成比	前年比		2017年	2018年	構成比	前年比
1	半導体	39,346	52,210	32.2	32.7	半導体	13,247	16,261	15.3	22.7
2	平板ディスプレイ・センサー	14,873	11,621	7.2	△ 21.9	コンピューター	7,419	8,073	7.6	8.8
3	石油製品	6,446	9,124	5.6	41.5	精密化学原料	4,282	6,032	5.7	40.9
4	合成樹脂	7,034	7,612	4.7	8.2	無線通信機器	6,516	5,714	5.4	△ 12.3
5	石油化学中間原料	6,981	7,290	4.5	4.4	鉄鋼板	4,613	3,801	3.6	△ 17.6
6	無線通信機器	6,281	4,088	2.5	△ 34.9	産業用電気機器	3,818	3,801	3.6	△ 0.4
7	基礎油粉	4,006	4,078	2.5	1.9	衣類	3,446	3,729	3.5	8.2
8	平板ディスプレイ製造用装備	1,909	3,609	2.2	89.1	平板ディスプレイ・センサー	3,247	3,056	2.9	△ 5.9
9	コンピューター	2,641	3,509	2.2	32.9	自動車部品	1,413	1,473	1.4	4.2
10	光学機器	2,909	3,419	2.1	17.5	家具	1,399	1,451	1.4	3.7
	輸出計	142,120	162,125	100.0	14.1	輸入計	97,860	106,489	100.0	8.8

注：MTI3桁ベース(韓国独自の品目分類体系、Ministry of Trade and Industry)

出所：韓国貿易協会

参考：中国における主要韓国企業の拠点展開の現状



注：製造企業は生産拠点、流通企業は店舗をそれぞれ表示。ただし、一部企業は主要拠点のみ記載。
出所：各社のホームページ、記事などを基に作成。

2017～2018年の対越貿易

- 当初、越に進出したのは繊維・建設だったが、現在はサムスン・LG韓国電機、電子産業への部品・原材料を輸出し、完成品を輸入する構造。
- 韓国企業の越進出は2006年から始まり、2018年基準で約4,200社が展開中。
- 2018年の対越輸出は486億ドルとなり、貿易黒字は2017年の315億ドルから289億ドルに減少。

表 2018年の韓国の品目別対越輸出入

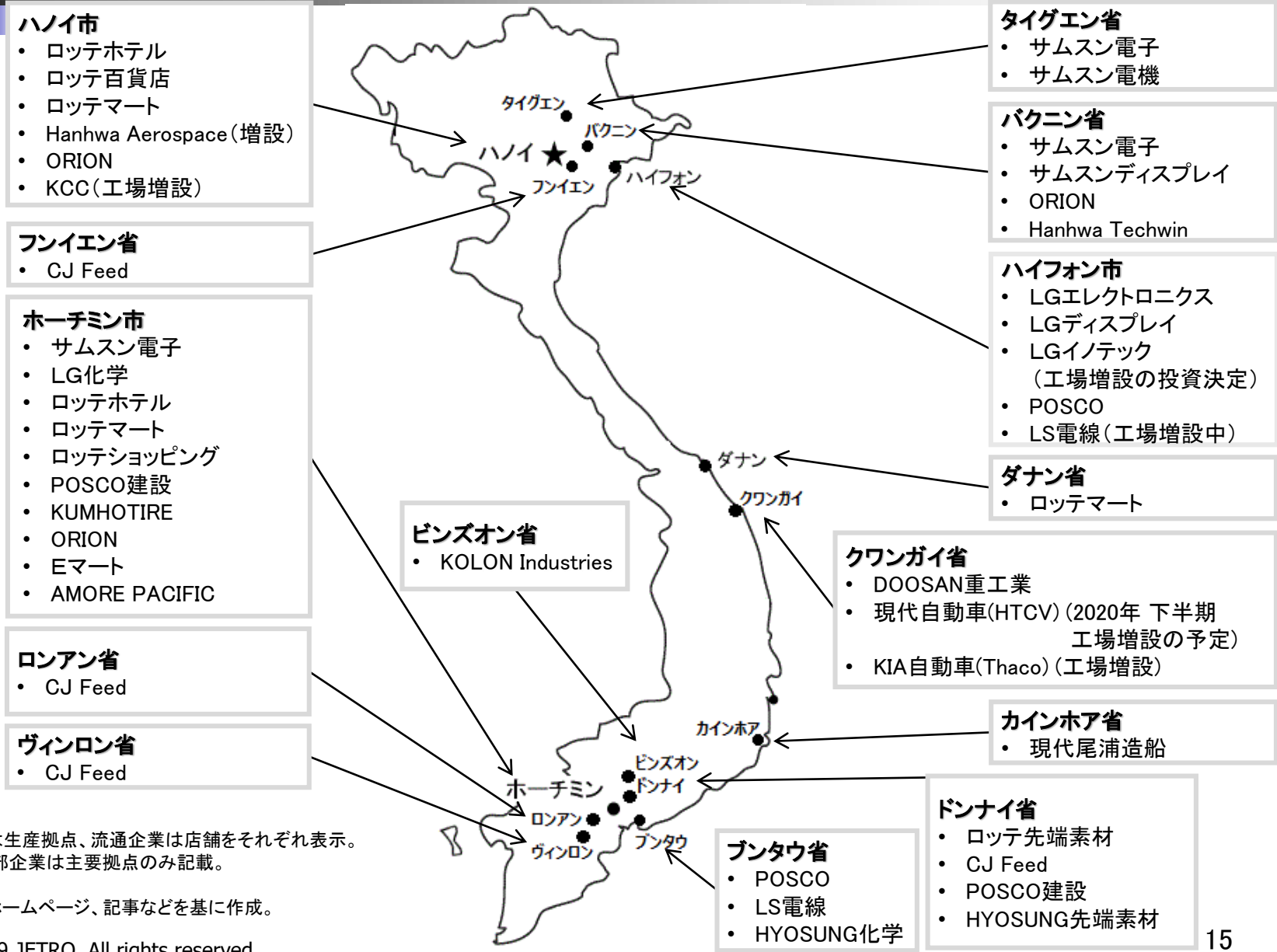
(単位:100万ドル、%)

順位	輸出					輸入				
	品目名	金額				品目名	金額			
		2017年	2018年	構成比	前年比		2017年	2018年	構成比	前年比
1	半導体	9,234	10,939	22.5	18.5	無線通信機器	3,964	4,838	24.6	22.1
2	平板ディスプレイ・センサー	7,367	8,909	18.3	20.9	衣類	2,875	3,570	18.2	24.2
3	無線通信機器	3,286	2,632	5.4	△ 19.9	平板ディスプレイ・センサー	604	1,137	5.8	88.3
4	器具部品	2,612	2,332	4.8	△ 10.7	つえ、シートステッキ、むちその他	797	980	5.0	23.0
5	石油製品	1,987	1,976	4.1	△ 0.6	木材類	511	793	4.0	55.2
6	合成樹脂	1,442	1,659	3.4	15.1	コンピューター	560	539	2.7	△ 3.8
7	プラスチック製品	1,152	1,205	2.5	4.6	器具部品	496	445	2.3	△ 10.3
8	編織物	1,118	1,107	2.3	△ 1.0	産業用電気機器	317	417	2.1	31.6
9	鉄鋼板	985	1,049	2.2	6.5	半導体	374	396	2.0	5.9
10	光学機器	794	944	1.9	18.9	映像機器	400	364	1.9	△ 9.0
	輸出計	47,754	48,622	100.0	1.8	輸入計	16,177	19,643	100.0	21.4

注：MTI3桁ベース(韓国独自の品目分類体系、Ministry of Trade and Industry)

出所：韓国貿易協会

参考：ベトナムにおける主要韓国企業の拠点展開の現状



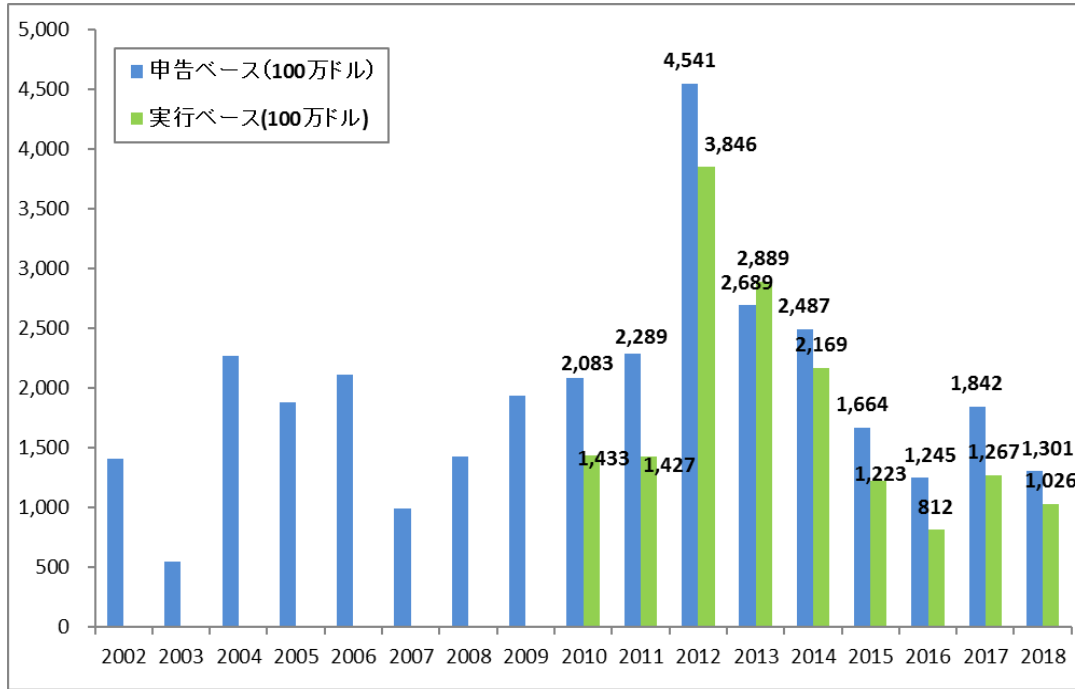
注：製造企業は生産拠点、流通企業は店舗をそれぞれ表示。ただし、一部企業は主要拠点のみ記載。

出所：各社のホームページ、記事などを基に作成。

日本の対韓直接投資

- 韓国大企業の需要に伴い、日本の部品・素材企業による投資規模が大きい。
- 日本の対韓直接投資は2012年からピークアウトし、2018年は申告ベースで13億104万ドル。
- 化学製品への規制強化、賃金の上昇、電気料金再値上げの可能性、徴税強化・法人税引上げの動きなどが対韓直接投資への懸念材料。

図 日本の対韓直接投資の推移



出所：産業通商資源部、なお実行ベースの統計は2010年～。

表 韓国の国別直接投資受入れ
(1962～2018年までの累計)

(単位：100万ドル、%)

申告順位	国名	申告ベース(%)	実行ベース(%)
1	米国	76,884(31.2)	34,509(22.5)
2	日本	44,044(17.9)	32,707(21.3)
3	オランダ	29,773(12.1)	25,567(16.6)
4	シンガポール	18,945(7.7)	13,840(9.0)
5	英国	16,544(6.7)	13,110(8.5)
6	香港	15,318(6.2)	6,617(4.3)
7	ドイツ	13,726(5.5)	10,380(6.7)
8	中国	13,710(5.5)	6,075(3.9)
9	カナダ	8,902(3.6)	3,722(2.4)
10	マレーシア	7,899(3.2)	6,621(4.3)
合計		245,750	153,153

出所：産業通商資源部

参考：経済自由区域および部品素材専用工業団地



表 経済自由区域の主な投資インセンティブ

区分	Uターン	移転	地方 新增設	落伍地域 地域開発 事業	その他の 地域特区*
目的	海外→国内 新・増設 促進	首都圏→ 地方 移転促進	地方 新增設 促進	地域均衡 発展	研究開発 促進 地域経済 活性化
根拠	海外進出 企業 復帰法	国家均衡発展法		地域開発 支援法	研究開発 特区法、 企業都市 法など
租 税 減 免	法人税	3(5)年 100% +2年50%	5(7)年 100% +2(3)年 50%	3年100% +2年50%	3年100% +2年50%
	関税	2年100% (50%)	-	-	-
地方 税	-	財産税 取得税 など	-	財産税、取得税など	-
立地 支援	産業団地 優先入居	随意契約、 賃貸料 減免	-	-	随意契約、 賃貸料 減免
補助金 支援 (地方 投資 促進 補助金)	土地購入 補助 設備投資 補助	土地購入 補助 設備投資 補助	設備 投資 補助	地投 補助金 支援割合 加算	-

出所：産業通商資源部ホームページおよび各種資料をもとに作成。

出所：企画財政部(投資誘致支援制度改編案 2018.7.18)

参考：日本から韓国への投資について

表 主な日系企業による投資事例(2018年以降)

発表日	企業名	分野	地域	概要
18.05.01	アマダ	板金加工	仁川	板金加工分野の政界トップのアマダが、仁川の知識情報産業団地に金属加工機械テクニカルセンターを構える。投資額は20億円で、今年内に稼働予定。
18.06.11	三洋化成工業株式会社	化学	忠清北道	三洋化成工業(京都市)は、自動車の省燃費化などに役立つ潤滑油添加剤を生産する合弁工場を韓国中部の忠清北道に立ち上げる。投資額は約20億円。2019年12月に生産能力1万1,000トンの設備を新設し、全社の能力を約2割増の7万トンに引き上げる。
18.08.27	日華化学	化学	大邱	約20億円を投じて、テグ市にフッ素化学品などの生産工場を増産すると発表。9月に着工し2020年2月の稼働を予定している。スポーツアパレル向けのフッ素系はっ水剤の原料、スマートフォンやノートパソコンなど精密機器の画面処理に使われる潤滑剤、防汚剤を生産する。新工場の生産能力は年1万4千トン。売り上げ計画では、2018年実績の36億円から、25年には60億円を見込んでいる。
18.10.12	三菱重工コンプレッサ	重工業	ソウル	三菱商事と合弁で現地法人「MHIコンプレッサ코리아」を設立し、10月1日から営業を開始。資本金は9億ウォン(約8,800万円)で、三菱重工コンプレッサが7割、三菱商事が3割を出資。営業拠点の設立を通じて顧客対応を強化することで、新規設備や、納品先の設備の能力増強、部品供給などのアフターサービス需要を取り込む。
18.10.16	東レ	化学	忠清北道	韓国の生活家電メーカー、清湖ナイスのグループ子会社MCMとエアフィルターを生産する合弁会社を韓国に設立したと発表した。空気清浄機を中心に、韓国大手家電メーカーへの供給を目指す。忠清北道・鎮川郡に新会社M&Tを設立。資本金は60億ウォン(約6億円)で、東レが40%、MCMが60%を出資。
18.11.15	イビデングラファイト코리아	製造	浦項	浦項市・慶尙北道とMOUを締結したイビデングラファイト코리아に約37億円(約370億ウォン)の追加投資をして、浦項市「迎日湾産業団地の部品素材専用工業団地」に、黒鉛の製造工場を新設・増設する。遅くとも来年2月初には着工する予定。
18.11.16	味の素	化学	平澤	11月16日東京の味の素の本社にて、農心社・京畿道・平澤市とMOUを締結した。味の素と農心社は2,300万ドルを共同投資し、農心社の敷地内に粉末スープ生産工場を設立すると発表。京畿道・平澤市は工場準工や今後の運営に関する行政的支援をする。今回の投資は、味の素が設備・技術部門を、工場建築・韓国国内流通は農心社が担当。
18.12.17	東京エレクトロン	製造	忠清南道	半導体部品・素材専門企業であるHANA Materialsは、第三者有償増資を通じて東京エレクトロンから5億円規模の投資を誘致したことを17日明らかにした。この資金は新規事業のシリコンカーバイド(SiC)量産設備確保に投じる。新規上場の予定日は2019年1月18日で、新株全量は保護預かりとなる。
19.02.15	株式会社伊藤製作所	金型・精密プレス加工	大田	三重県所在の伊藤製作所は、電気自動車や電子機器などの先端部品生産会社で年売上高が約58億円に達する企業。大田市とは300万ドルの投資協約を締結。
19.02.15	バイオコモ株式会社	医薬	大田	バイオコモ株式会社は三重大学大学院医学系研究科感染症制御医学・分子遺伝学野阪哲哉教授と共同で新しいワクチンの研究開発に取り組む創薬ベンチャー。ワクチン生産工場の設立のため大田市に1,000万ドル投資申告を約束。
19.02.18	伸興化成株式会社	化学	忠清南道	18日、伸興化成株式会社は忠清南道とMOUを締結し、今後5年間2,000万ドルを投じる。伸興化成の系列会社である東新ポリマーが位置する忠清南道洪城(ホンソン)郡の農工団地内の9,599㎡敷地内に床材のタイル生産工場を増設する。来月の4月に着工し、2020年準工を目指す。
19.03.18	株式会社グローバルプロダクトプランニング	流通	ソウル	微細電流マスクパック「FRANZパック」が主力商品であるバイオセンサー研究所は日本のビューティー専門流通会社のGPPから1億円の投資を誘致したことを18日、明らかにした。1年間、日本市場での臨床および市場性テストを経て契約を締結。
19.03.22	アイリスオーヤマ	家電製品・生活用品	仁川	日本の生活用品大手のアイリスオーヤマが1億ドルを投じ、仁川経済自由区域の松島に製造・研究施設を立ち上げた。敷地は2万7千㎡で、アイリスオーヤマが100%投じた韓国法人。仁川工場では送風機、布団乾燥機、空気清浄機などを生産する。

注1：主な案件を記載。注2：上記の内容は当初計画から変更される場合もある。出所：各社プレスリリース、記事などを基に作成。

参考：韓国への対日直接投資の現状

- 韓国への対日直接投資残高は7,185億円（2018年末）と、国別で9位。
- 2018年はアジア諸国においてシンガポール、香港、台湾に次ぐ水準。

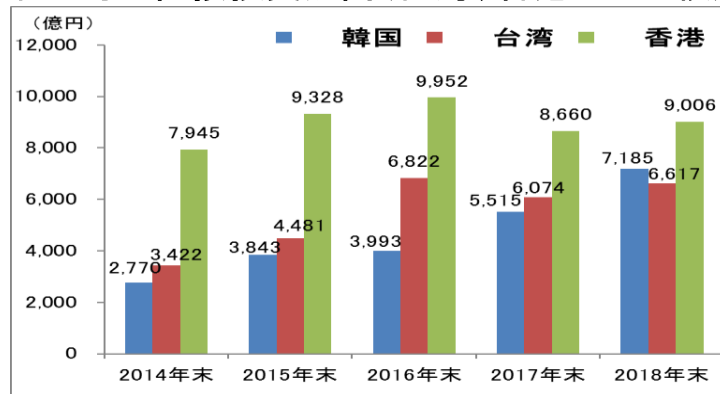
表 対日直接投資残高（2018年末）
（単位：億円）

順位	国名	金額	世界シェア
1	アメリカ	52,948	23.3
2	フランス	36,365	16
3	オランダ	27,091	11.9
4	シンガポール	18,749	8.3
5	ケイマン諸島	16,398	7.2
6	英国	16,004	7.1
7	香港	9,006	4
8	ルクセンブルク	7,402	3.3
9	韓国	7,185	3.2
10	台湾	6,617	2.9
11	スイス	6,267	2.8
12	ドイツ	4,049	1.8
合計		226,958	

表 対日直接投資残高の推移（地域・国別）
（単位：億円）

	2014年末	2015年末	2016年末	2017年末	2018年末	構成比
アジア	31,981	35,997	43,962	43,352	44,749	19.7%
シンガポール	16,260	16,285	21,135	20,131	18,749	8.3%
香港	7,945	9,328	9,952	8,660	9,006	4.0%
台湾	3,422	4,481	6,822	6,074	6,617	2.9%
韓国	2,770	3,843	3,993	5,515	7,185	3.2%
中国	770	790	968	1,504	1,865	0.8%
北米	66,249	63,395	63,403	58,061	54,364	24.0%
米国	64,655	61,998	61,852	56,487	52,948	23.3%
カナダ	1,594	1,398	1,551	1,574	1,415	0.6%
中南米	13,020	13,474	14,091	16,068	18,785	8.3%
ケイマン諸島	10,442	10,599	11,206	13,352	16,398	7.2%
大洋州	2,260	2,483	2,955	2,943	3,133	1.4%
オーストラリア	1,791	2,052	2,519	2,525	2,699	1.2%
欧州	92,906	94,137	104,733	107,607	103,936	45.8%
オランダ	28,122	29,016	25,880	30,079	27,091	11.9%
フランス	26,721	29,889	33,099	33,992	36,365	16.0%
英国	15,122	15,878	14,868	15,506	16,004	7.1%
ドイツ	6,500	2,809	4,726	4,838	4,049	1.8%
中東	511	200	304	316	1,776	0.8%
アフリカ	129	121	159	170	176	0.1%
合計	207,095	209,846	229,645	228,556	226,958	100.0%

図 対日直接投資残高（台湾、香港との比較）

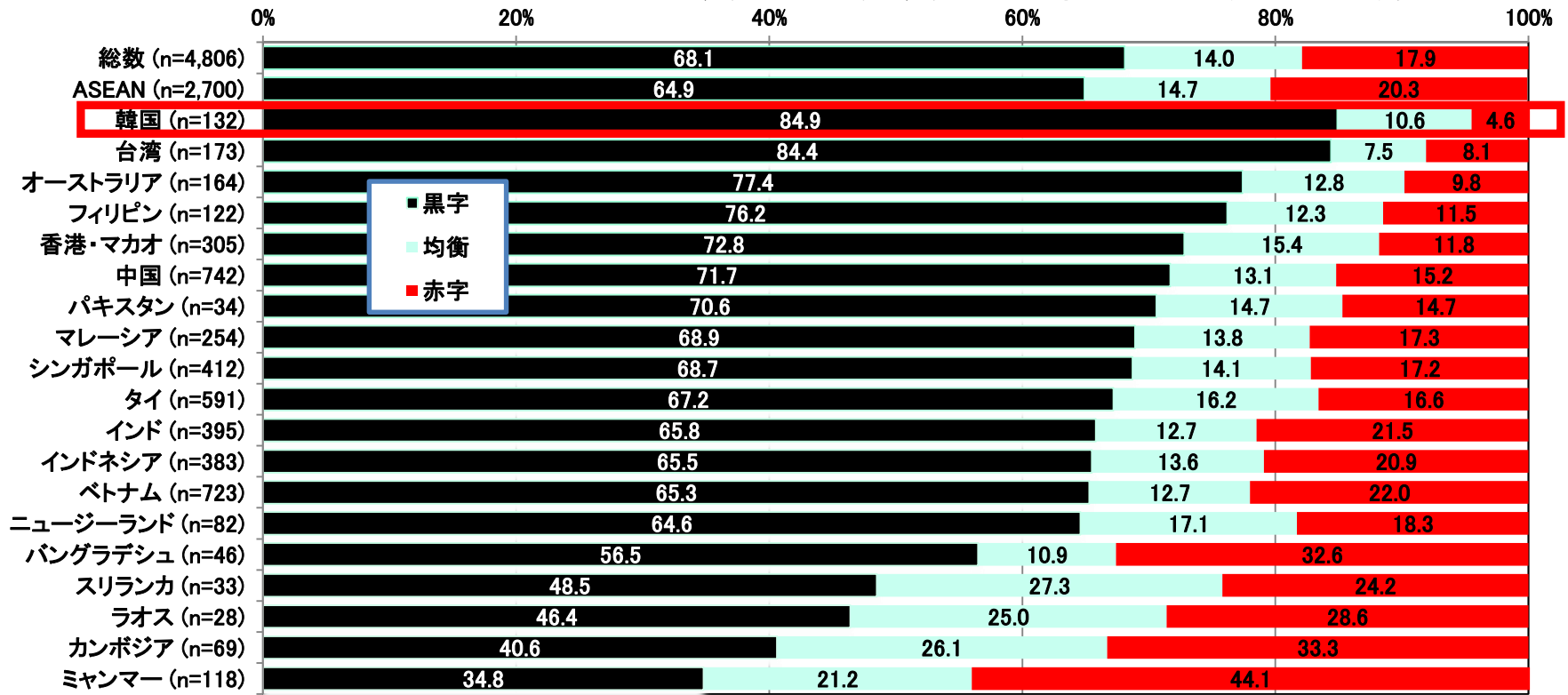


出所：図、表いずれも日本銀行

在韓日系企業の業績現状

□ 2018年度の在韓日系企業のうち、黒字企業の割合は84.9%(営業利益ベース)となり、赤字企業の割合は4.6%。

図 在アジア・オセアニアの日系企業(製造業+非製造業の営業利益、2018年、見込み)



注：対象はアジア・オセアニアの20カ国に進出している日系企業(日本側による直接、間接の出資比率が10%以上の企業および日本企業の支店・駐在員事務所)、調査期間は2018年10月～11月。

出所：ジェトロ実施の「2018年度アジア・オセアニア進出日系企業実態調査」(<https://www.jetro.go.jp/world/reports/2018/01/117eb326c5a7e5fd.html>)

韓国企業の特徴

- 500にランクインした韓国企業は、2019年は16社。
- 大手企業が経済を支える構造で、サムスングループの売上げはGDP全体の2割の規模に相当。
- 中小・中堅企業の脆弱さ、裾野産業の不備が弱点。

表 フォーチュン・グローバル500の韓国企業

(単位: 億ドル)

社名	売上高	2019年 順位	2018年 順位	2017年 順位	2016年 順位	2015年 順位
1	サムスン電子	2,215	15	12	15	13
2	SKホールディングス	959	73	84	95	57
3	現代自動車	879	94	78	78	99
4	ポスコ	592	171	184	208	162
5	LGエレクトロニクス	557	185	178	201	175
6	韓国電力公社	545	193	188	177	193
7	起亜自動車	492	227	219	209	242
8	ハンファ	443	261	244	246	329
9	SK Hynix	367	335	442	-	-
10	GSカルテックス	330	376	438	486	431
11	現代モービス	319	393	380	323	310
12	サムスン生命	293	426	421	413	439
13	KBフィナンシャルグループ	290	434	471	-	-
14	サムスンC&T	283	444	458	447	-
15	CJコーポレーション	268	463	493	-	-
16	LG化学	256	490	-	-	-

注：米国は121社、日本は52社がランクイン。

出所：米フォーチュン誌Global500 2019(<http://fortune.com/global500/>)

図 SWOT分析による韓国企業の強み・弱み

強み (Strength)	弱み (Weakness)
<ul style="list-style-type: none"> ・迅速な意思決定 ・(日本)より手ごろな価格設定 ・向上した品質・性能・デザイン ・積極的なマーケティング ・重点地域を重視した地域戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ・核心・源泉技術の不足 ・弱い中堅・中小企業 ・部品・素材の高い日本依存度 ・耐久性・精度の不足
機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
<ul style="list-style-type: none"> ・官民共同のトップセールス ・FTAネットワークの拡大・利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国製品の台頭 ・世界経済の低迷

出所：ジェトロ「存在感高める中国・韓国企業」の資料をもとに作成

主要企業の動向(2019年第3四半期)

- サムスン電子: スマホ・ディスプレイの好調がメモリー半導体は需要減をカバーして前年同期比で、増収増益。
- 現代自動車: スポーツ用多目的車の販売好調・ウオン安により売り上げは増加したが、リコール費用が発生したため、前年同期比で、増収増益。
- LGエレクトロニクス: 家電事業の営業利益が牽引したがスマートフォンは18四半期連続の赤字で、増収減益。

表 サムスン電子の業績

(単位:10億ウオン、%)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年				前年同期比
					第3四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	
売上高	200,653	201,867	239,576	243,770	65,460	52,385	56,130	62,000	△ 5.3
営業利益	26,413	29,241	53,645	58,885	17,574	6,233	6,600	7,780	△ 55.7
純利益	19,060	22,726	45,544	44,341	13,150	5,040	5,180	6,290	△ 52.2

表 現代自動車の業績

(単位:10億ウオン、%)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年				前年同期比
					第3四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	
売上高	91,959	93,649	96,376	96,814	24,434	23,987	26,966	26,969	10.4
営業利益	6,358	5,194	4,574	2,422	289	825	1,238	379	31.0
純利益	6,509	5,720	4,547	1,646	306	954	999	460	50.5

表 LGエレクトロニクスの業績

(単位:10億ウオン、%)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年				前年同期比
					第3四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	
売上高	56,509	55,367	61,396	61,341	15,427	14,915	15,629	157,00	1.8
営業利益	1,192	1,338	2,468	3,383	748	900	652	781	4.4
純利益	249	126	1,869	745	497	578	106	345	△ 30.5

注:連結ベース 出所:通年のデータは金融監督院電子公示システムをもとに作成。 四半期のデータは各社のIR資料をもとに作成。

第3国でのビジネスにおける日韓連携の具体例

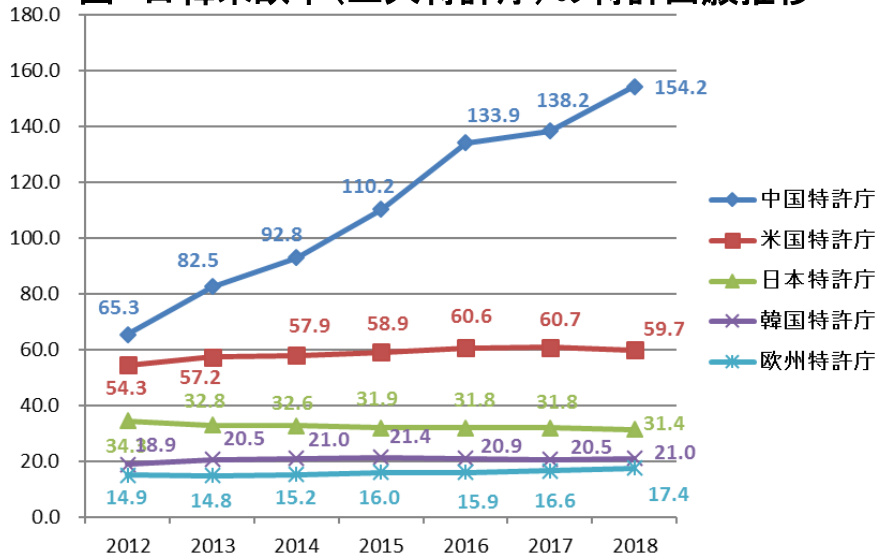
発表年月	国名	分野	企業名	案件概要
2013年	3月	マレーシア	ポリブタジエンゴム	アジアのポリブタジエンゴム (BR) 需要拡大に対応すべく、BR製造・販売会社をマレーシアに設立。宇部興産の製造技術ライセンスによりBR製造設備を建設し、ロッテケミカルの100%子会社のタイタンケミカルから原料のブタジエンの供給を受ける。
	4月	中国	砂糖	広東省に3社合弁で砂糖製造販売会社を設立することで合意。タイクー(太古糖業)のブランドカ・マーケティングカ、ティーエス(大韓製糖)の製造技術力、住友商事の砂糖トレードビジネス・海外事業経営ノウハウを組み合わせる。
	5月	トルコ	製油所	4社のコンソーシアムがトルコSTAR Refineri社より製油所の建設契約を受注。本プロジェクトはトルコ南西部に年間精製能力1,000万トンの製油所を新たに建設するものであり、国際コンソーシアムの受注金額は約40億米ドルで、2017年後半完工を予定。
	5月	モンゴル	空港建設	三菱商事と千代田化工建設によるJVが新ウランバートル国際空港の建設工事を受注し、ターミナルビルとボーディングブリッジの建設をサムソン物産が下請け。JVの受注金額は約500億円で、予定工期は2013年6月から2017年1月まで。
	6月	ベトナム	小麦粉	バリアンタオ省にCJ第一製糖51%、住友商事49%の合弁で小麦粉、ミックス粉の製造販売会社を設立することで合意。総投資額は4,400万ドル水準。住友商事の持つベトナム小麦粉市場での販売ノウハウとCJ第一製糖が持つ高付加価値製粉技術の融合を狙う。
	8月	マレーシア	石炭火力発電所	2社のコンソーシアムがマレーシア政府系電力会社のTenaga Nasional Berhadが発注した超々臨界圧石炭火力発電所(1,000 MW×1基)の設計・調達・建設業務を請負うEPC契約を受注。コンソーシアムの総受注額は約1,300億円、2014年1月に着工、2017年10月に完工予定。
	11月	中国	鶏卵加工食品	3社は、中国北京市内に合弁会社「Beijing Delica Foods」を設立。半熟卵、温泉卵、おでん用卵など鶏卵加工食品を2014年10月から北京などで販売。
	12月	ベトナム	石炭火力発電所	4社のコンソーシアムがベトナム電力公社から石炭火力発電プラントを受注。ベトナム南部ビントゥアン州に建設するビンタン4発電所向けに、出力60万キロワットの大型石炭焚き発電プラントを合計2基(計120万キロワット)建設するプロジェクト。同発電プラントは、1号機が2017年、2号機が2018年に運転開始予定。
2014年	2月	マレーシア	洋上LNGプラント	4社のコンソーシアムがマレーシア国営石油公社(PETRONAS)が同国サバ州沖ガスタ田向けに計画している洋上LNGプラント建設プロジェクトを受注。日揮が液化装置を、サムスン重工が船体を主に担当。2018年前半まで完工予定。
	5月	トルクメニスタン	ガス化学コンプレックス	4社のコンソーシアムがトルクメニスタン国営ガス会社向けの大型ガス化学コンプレックスを受注。本設備はカスピ海沿岸で産出される天然ガスを原料に、エチレン、高密度ポリエチレン、ポリプロピレンを製造。完成は2018年予定。
	7月	シンガポール	埋立	5社のコンソーシアムがシンガポールジュロンタウン公社(JTC)からチュアスフィンガーワン埋立工事を受注。持分は現代建設が29%、サムスン物産と五洋建設がそれぞれ28%、Van OordとBoskalisがそれぞれ7.5%。2019年1月竣工予定。
	9月	マレーシア	石炭火力発電所	4社のコンソーシアムがマレーシア向け2,000MW超々臨界圧石炭火力発電所の建設請負工事を受注。マレーシアの首都クアラルンプールの南約60kmに位置するネグリシバン州に建設するプロジェクトで、商業運転開始は2018年に1号機、2019年に2号機を計画。
2015年	7月	カタール	海水淡水化プラント	三菱商事・トーヨータイのコンソーシアムがカタール発電・造水会社Qatar Electricity & Water Companyからラス・アブ・フォンタスA2海水淡水化プラントを受注。三菱商事は日立造船の海水淡水化設備を、トーヨータイは取水設備・ボイラー・生産水貯蔵設備等の周辺設備を取り纏め、造水能力約16万立方メートル/日規模のプラントをカタールのラス・アブ・フォンタス地区に2015年6月までに建設する予定。サムスン物産は、複合発展部門のEPCを担当。(EPC工事費用24億6,500万ドルの中、サムスン物産の契約分は18億ドル)
	10月	インドネシア	売電	5社が出資している事業会社PT.Cirebon Energi Prasaranaがインドネシアのチレボンで2012年7月から商業運転を行っている石炭火力IPPプロジェクトの拡張を目的に、インドネシア国有電力会社PT.PLNと25年に亘る長期売電契約を締結。同契約の総事業費は約20億ドル。
2016年	1月	ベトナム	下水管敷設	ヤスダエンジニアリングとコロソ社によるコンソーシアムがベトナム国ホーチミン市における「第2期ホーチミン市水環境改善事業」の一部(下水管敷設工事)に参画。契約金額は約109億円で、2016年3月に着工し3年間行う予定。
2018年	1月	中国	IT	ソフトバンクグループは22日、米系ベンチャーキャピタルのセコイアキャピタルと共同で、韓国のネイバー子会社でカメラアプリのプロバイダー・スノーの中国法人に5,000万ドル(約55億5,000万円)を投資。
	8月	インド	化学	三井化学とSKCが折半出資した合弁会社、三井化学SKCポリウレタン(MCNS、韓国・ソウル)は2017年2月、インドに100%の子会社、MCNSポリウレタン・インドを設立し、8月より生産工場の稼働。資本金は730万米ドル(約8億円)

注：企業名は発表時の名称 / 出所：各社プレス・リリース資料

知的財産の状況

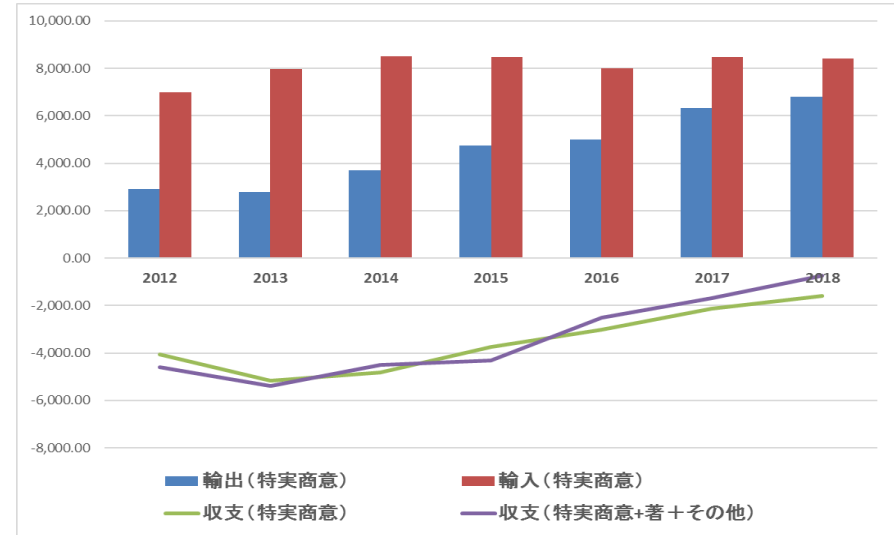
- 2018年の韓国の特許出願数は、件数規模では世界第4位（1位 中国154.2万件、2位 米国59.7万件、3位 日本31.4万件、4位 韓国21.0万件、5位 欧州17.4万件）。
- 特許などの収支は赤字が継続、ただし、近年赤字幅が縮小傾向（日米の技術貿易収支は黒字推移）。
- 著作権に関するものも含めた知的財産訴訟件数は2013年まで増加傾向であったが、その後減少傾向。

図 日韓米欧中(五大特許庁)の特許出願推移



出所：特許行政年次報告書2019年版(日本特許庁)をもとに作成

図 韓国の知的財産権の貿易収支



出所：韓国統計庁国家ポータルKOISISをもとに作成

表 韓国における知的財産訴訟件数(民事)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
一審	1,371	1,681	966(936)	785(770)	381(371)	384(375)	265(263)
控訴審	56	100	91(64)	103(86)	174(164)	182(177)	97(97)
上告審	9	17	17(7)	15(10)	22(16)	26(25)	28(28)
計	1,436	1,798	1,074(1,007)	903(866)	577(551)	592(577)	390(388)

出所：法院行政処「司法年鑑」、2014年以降のデータ中()内は電子訴訟新受件数

韓国のFTA進捗状況

EFTA(発効)

05年01月、第1回 FTA交渉開催
05年07月、第4回 FTA交渉開催
06年09月、発効

EU(発効)

07年05月、第1回 FTA交渉開催
09年03月、第8回 FTA交渉開催
11年07月、発効

英国(交渉中)臨時措置

17年02月、第1回 貿易作業班開催
19年05月、第7回 貿易作業班開催
19年06月、基本合意
19年08月、韓-英FTA署名
19年10月、国会の本会議で批准同意案が可決

トルコ(発効)

10年04月、第1回 FTA交渉開催
12年03月、第4回 FTA交渉開催
13年05月、基本協定・商品分野発効
18年08月、サービス・投資分野発効

イスラエル(交渉中)

16年06月、第1回 FTA交渉開催
18年03月、第6回 FTA交渉開催
19年08月、大筋合意

GCC(交渉中断)

08年07月、第1回 交渉開催
09年07月、第3回 交渉後、中断

ロシア(交渉中)

19年06月、サービス・投資FTA第1回交渉開催
19年10月、サービス・投資FTA第2回交渉開催

インド(発効)

06年03月、第1回 CEPA交渉開催
08年09月、第12回 CEPA交渉開催
10年01月、発効

インドネシア(交渉中)

12年07月、第1回 CEPA交渉開催
19年08月、第9回 CEPA交渉開催
19年10月、基本合意
19年10月、妥結

中国(発効)

12年05月、第1回 FTA交渉開催
14年11月、第14回 FTA交渉開催
15年12月、発効

日中韓(交渉中)

13年03月、第1回 交渉開催
19年04月、第15回 交渉開催

日本(交渉中断)

03年12月、第1回 交渉開催
04年11月、第6回 交渉から中断
10年09月、第1回 局長レベル協議開催
11年05月、第2回 局長レベル協議開催

RCEP(交渉中)

13年05月、RCEP 第1回 交渉開始
19年09月、RCEP 第28回 交渉開催
19年10月、RCEP 第9回 閣僚会合

ベトナム(発効)

12年09月、第1回 FTA交渉開始
14年12月、第9回 FTA交渉開始
15年12月、発効

マレーシア(交渉中)

19年07月、第1回 交渉開催
19年09月、第3回 交渉開催

シンガポール(発効)

04年01月、第1回 FTA交渉開催
04年10月、第5回 FTA交渉開催
06年03月、発効

ASEAN(発効)

05年02月、第1回 FTA交渉開始
07年06月、商品協定発効
08年10月、第24回 FTA交渉開始
09年09月、投資協定発効

フィリピン(交渉中)

19年06月、第1回 交渉開催
19年09月、第4回 交渉開催

オーストラリア(発効)

09年05月、第1回 FTA交渉開催
13年12月、第7回 FTA交渉開催
14年12月、発効

ニュージーランド(発効)

09年06月、第1回 交渉開催
10年05月、第4回 交渉開催
15年12月、発効

カナダ(発効)

05年07月、第1回 交渉開催
13年11月、第14回 交渉開催
15年01月、発効

米国(発効)

06年06月、第1回 交渉開催
07年03月、第8回 交渉開催
12年03月、発効
17年07月、米国が再交渉を要請
18年01月、第1回 改定交渉開催
18年03月、第3回 改定交渉開催
19年01月、改定議定書 発効

メキシコ(交渉中断)

07年12月、第1回 FTA交渉開始
08年06月、第2回 交渉後中断

中米(発効)

15年09月、第1回 FTA交渉開催
16年10月、第7回 FTA交渉開催
16年11月、実質妥結
18年02月、署名
19年08月、批准同意案の国会承認
19年10月、発効

コロンビア(発効)

09年12月、第1回 交渉開催
12年06月、第7回 交渉開催
16年07月、発効

エクアドル(交渉中)

16年01月、SECA 第1回 交渉開催
16年11月、SECA 第5回 交渉開催

ペルー(発効)

09年03月、第1回 交渉開催
10年08月、第5回 交渉開催
11年08月、発効

メルコスール(共同研究)

18年09月、第1回 交渉開催
19年07月、第3回 交渉開催

チリ(発効)

99年12月、第1回 交渉開催
02年10月、第6回 交渉開催
04年04月、発効
19年10月、第3回 FTA改善交渉開催

今後の景気の方

- 依然としてリスク要因が残存
 - ・ 中国の成長鈍化
 - ・ 米中貿易摩擦の影響
 - ・ 米国保護貿易主義の台頭
 - ・ ウォン高傾向(円安・ドル安)
 - ・ その他(個人負債の増加、少子高齢化など)
- 2018年の実質GDP成長率は2.7%(速報値)
- 2019年のGDP成長率見通し

発表機関	2019年 経済成長率	2019年経済成長率以前の発表値
韓国銀行	2.2%(19.07.18)	2.5%(19.04.18) ← 2.6%(19.01.24) ← 2.7% (18.10.18) ← 2.8% (18.07.12) ← 3.0% (18.04.12)
韓国政府(企画財政部)	2.4~2.5%(19.07.03)	2.6~2.7%(18.12.18) ← 2.9% (18.07.18) ← 3.0% (18.05.30) ← 3.0% (17.12.27) ← 3.0% (17.07.25)
韓国開発研究院(KDI)	2.4%(19.05.22)	2.6%(18.11.06) ← 2.9% (18.05.31) ← 2.9% (18.05.08) ← 2.9% (17.12.06) ← 2.8% (17.08.06)
経済協力開発機(OECD)	2.1%(19.09.19)	2.4%(19.05.21) ← 2.6%(19.03.06) ← 2.8%(18.11.21) ← 2.7% (18.09.20) ← 3.0% (18.06.20)
国際通貨基金(IMF)	2.0%(19.10.15)	2.6%(18.10.09) ← 3.0% (18.07.16) ← 3.0% (18.04.17) ← 3.0% (17.11.22) ← 3.0% (17.09.11)

注：カッコ内は発表日

参考：韓国の政治体制

・政体：民主共和国
 ・大統領： 文在寅
 （任期5年、2017年5月10日就任）



< 行政府 >

国務総理、18部、5処、17庁

※部：日本の省に相当

< 司法府 >

大法院(1)、高等法院(5)、地方法院(18)、専門法院(家庭法院、行政法院、特許法院) *司法府から独立した特別裁判所の憲法裁判所

< 立法府 >

国会議員定員300名

（一院制、任期4年）

（地域区：253、比例：47）

[参考] 政党別の国会議員構成

- ・共に民主党：128名
- ・自由韓国党：109名
- ・正しい未来党：28名
- ・その他：31名

計296名

（2019年10月31日基準）

○ 歴代大統領

李承晩

1948～1960
初代～3代



尹潽善

1960～1961
4代



朴正熙

1963～1979
5代～9代



崔圭夏

1979～1980
10代



全斗煥

1980～1987
11代～12代



盧泰愚

1987～1993
13代



金泳三

1993～1998
14代



金大中

1998～2003
15代



盧武鉉

2003～2008
16代



李明博

2008～2013
17代



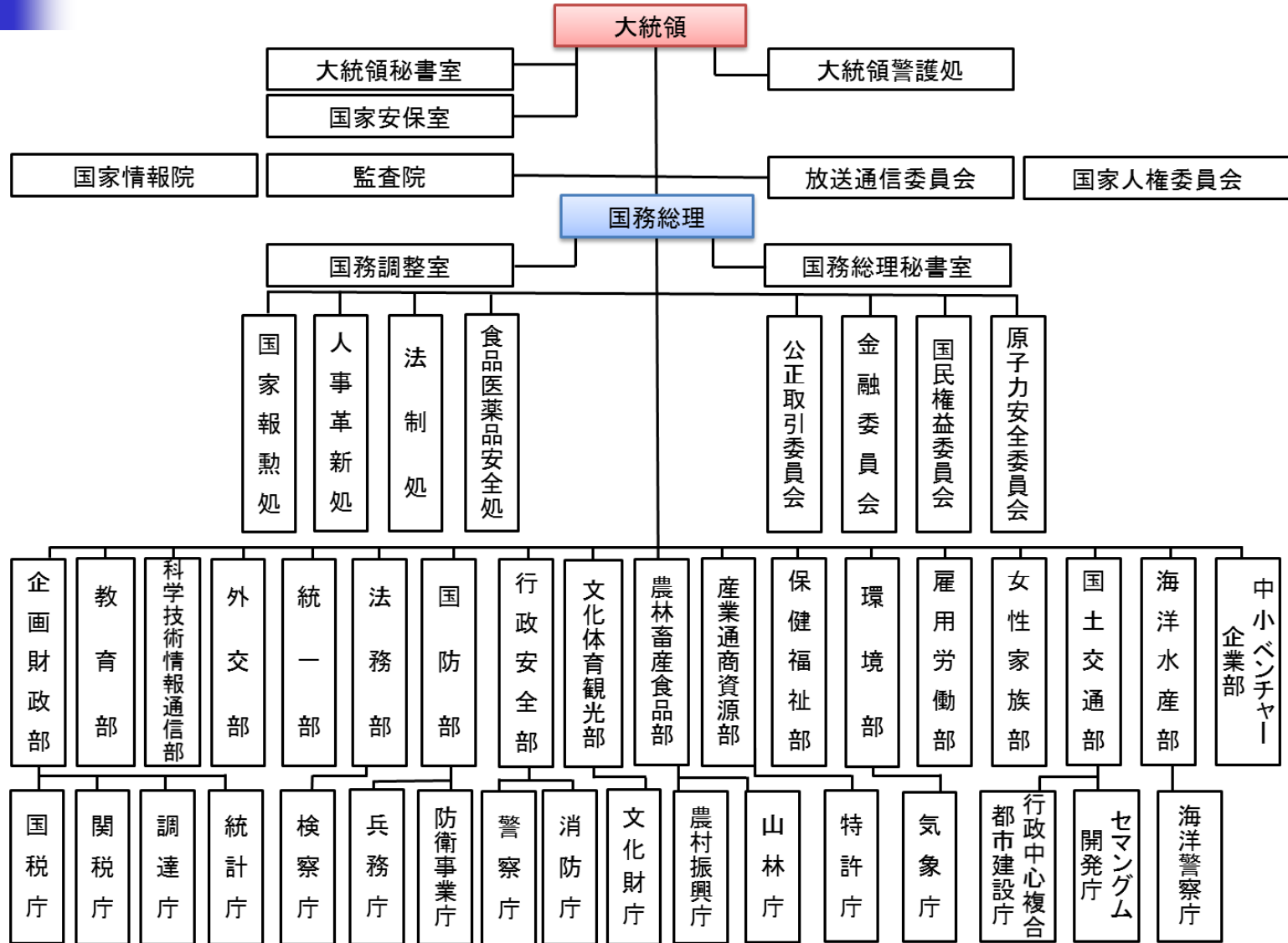
朴槿恵

2013～2017
18代



参考：行政組織図（18部、5処、17庁）

（2017年7月20日に改正案が成立）

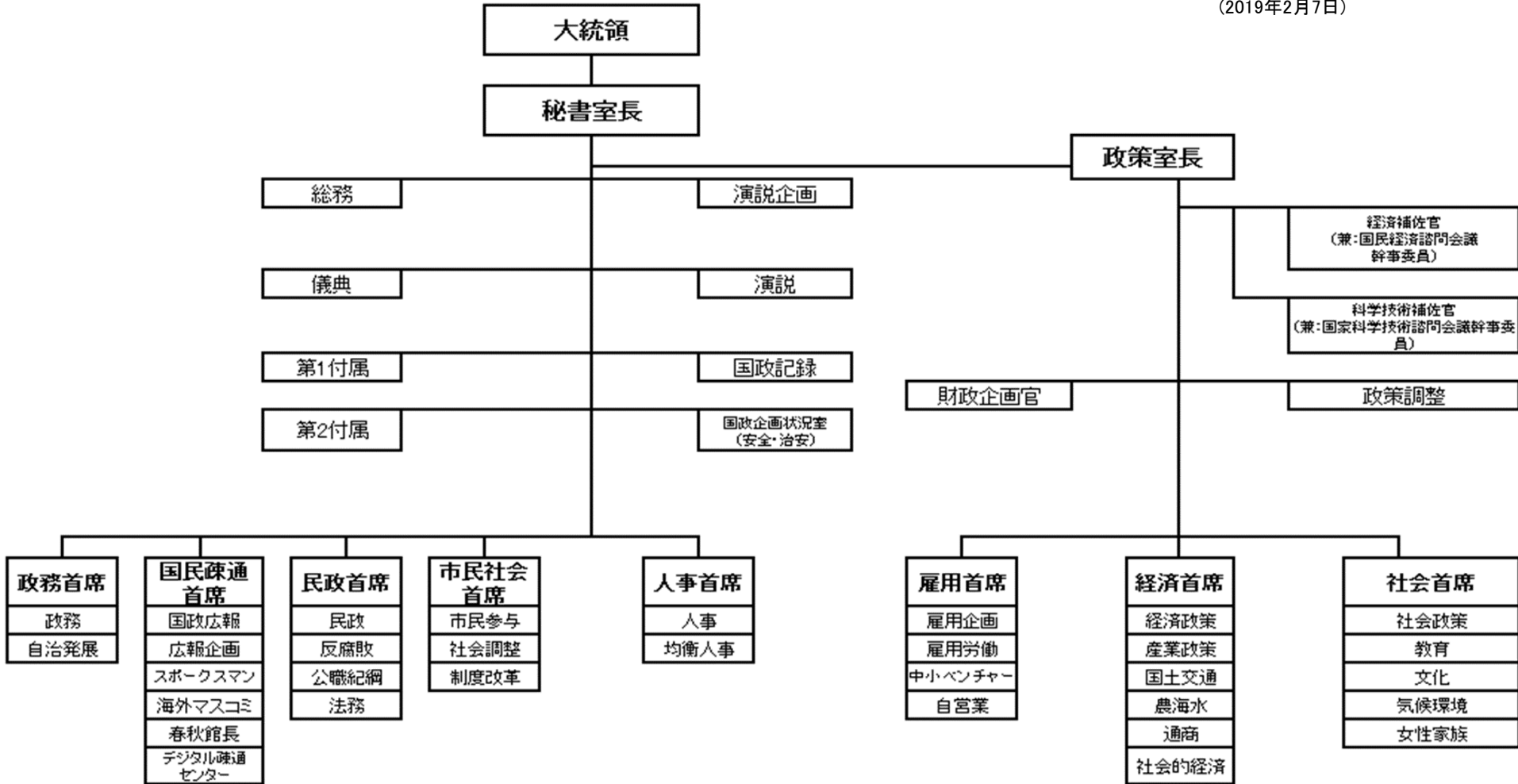


※政府組織法に基づき企画財政部長官と教育部長官は副総理を兼任

出所：青瓦台ホームページ
（2018年8月13日基準）

参考：大統領秘書室組織図

出所：青瓦台ホームページをもとに作成
(2019年2月7日)



★掲載情報については、正確を期すよう、ジェトロソウルにおいても最大限努力しておりますが、情報の正確性に関する最終確認や採否については、利用者の皆様の責任でご判断くださいますようお願いいたします。
★本資料を通じて皆様に提供した情報の利用により、不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロソウルはその責任を負いません。